

国宝高松塚古墳壁画及び国宝キトラ古墳壁画のメンテナンス等について

国立文化財機構古墳壁画PT修復班（壁画担当）

○ 高松塚古墳壁画

1) 壁画の維持管理及び関連する資料の保存方法の検討に関する業務

① 壁画の状態確認

修理時に材料を追加した部分、あるいは新規クリーニング作業（紫外線照射、酵素処理等）を施した部分を中心に、修理後の状況について定期的に確認を行っている。

今年度は令和7年6月、10月、令和8年2月に予定している。



写真1 状態確認箇所 北壁下部 充填



写真2 状態確認箇所 天井3 解体時 MC 噴霧



写真3 状態確認箇所 東男子 解体時 HPC



写真4 状態確認箇所 東男子 充填補強

② 集中メンテナンス作業の状況確認及び打ち合わせ

令和7年度も従来と同様に一般公開後に予定している。

令和7年5月、8月、10月、令和8年1月

2) 壁画の修理作業に関する各種データ整理と報告書準備

- ・ 報告書を令和6年度末に刊行。

- ・ 資料の整理

関連資料についてリスト化と電子化を遂行しており、令和7年度も作業を進めている。

○ キトラ古墳壁画

1) 再構成されなかった漆喰片を含む壁画の維持管理及び保存方法の検討

① 集中メンテナンス作業

令和7年度集中メンテナンス：

令和7年6月、8月、11月、令和8年2月

② 「辰」「巳」「申」「午」の保管方法に関する検討

「辰」「巳」「申」の安定化処置を随次、進めていく予定である。（作業順は「申」「巳」「辰」を予定。）昨年度は、保管されている漆喰片の状態確認と強化処置を行った。具体的には、メチルセルロースによる強化処置とパラロイドB72による強化処置を行い、また、裏打ちに用いるパラロイドB72シートの作成を開始した。

令和7年度は、裏を安定させ表打ちを外す予定である。昨年度、パラロイドB72溶液で3回含浸強化を行なったが、その上にポリアリレートシート（不織布様）1層、ポリアリレート（織様）1層を貼り、シリコンを用いてロハセルを貼り付けた上で、表に返し表打ちを除去する。その後、泥の状態を確認しつつ必要な処置を行う。

「午」については、漆喰側の再構成を試みつつ、泥側の今後の保管方法について検討を継続する。



申の作業状況（4月18日現在）

2) 壁画の修理作業に関する資料のアーカイブ化

修理や点検の作業に関する物理的な資料については、目録化し、現在、東文研保存修復資料室において保管中であり、適宜、スキヤニング等を実施している。